

No.	市町名	地区	実施した事業						事業内容	事業実施に対する自己評価
			地区民協体制強化							
			地域福祉活動の推進	子育て・児童育成・推進	資質向上に向けた研修	民生委員・児童委員の活動	民生委員・児童委員の調査	地区民児協同士の交流事業の実施		
1	下関市	彦島第2地区						○	<p>平成31年3月12日(火)～13日(水)にかけて、広島県呉市の第24区(音戸町)民生委員協議会との他地区交流を行いました。私どもの参加者は、41名中32名の出席、先方も32名の出席でした。普段通りの定例会9:30～を見せていただき、昼食をはさんで懇親会も時間が足りないほどに会話もはずみました。同じ島同士という似通った環境もあり、次は下関の方へ伺いたいねという話になりました。</p> <p>研修部と音戸の中野会長との間で2年越しの連絡を重ねて実現の運びとなりました。</p>	<p>【成果】 地域性や構成員の男女比なども違いがありましたが、定例会のやり方も内容も全然違い、会のやり方、進め方、部の構成の仕方など、すごく考えさせられました。すぐ私どもでもやれそうな事もあるなと思いました。他所を知ることの大事さを感じました。</p> <p>【課題】 同じことはやれないと思います。市とか行政のやり方も違いましたが、取組として今まで考えなかった方法があったりして、市、保健センター、包括支援センター等と連絡を取って、一緒に会を構成していけると良いなと思っております。</p>
2	下関市	小月地区	○	○					<p>・高齢者宅を訪問し、PRカードとウェットティッシュを差し上げて、災害時の避難行動の意識を持っていただくためにアンケートを実施した。(5月～8月の期間)</p> <p>・幼稚園・保育園・子育てサークルに伺って、PRカードとティッシュを配った。</p> <p>・小学生とカップケーキを作って、一緒にジュースを飲みながら話をした。</p>	<p>【成果】 ・7月の豪雨災害があったので、事前に話ができて、少しは意識を持ってもらえたかな・・・と感じた。</p> <p>・PR活動として、子供達との交流、幼稚園・保育園とのつながりの必要性を感じた。</p> <p>【課題】 ・避難の具体的な方法をそれぞれの地域で話し合うことが必要だと痛感した。</p>
3	下関市	川中地区			○				<p>障がい者雇用の現場から、その実態と基本的な考え方を学ぶことから障がい者の思い・意思を理解し、自立の支援に繋げる“考え方”を学ぶ研修。</p> <p>①重度障がい者多数雇用事業所(有)リベルタス興産(宇部興産(株)の特例子会社)の視察研修</p> <p>②実施日時:平成31年3月27日(水)</p> <p>③参加者数:26名</p> <p>④内 容:◎(有)リベルタス興産の雇用の現状、障がいに対する考え方・企業理念、業務内容・実践事例等の説明</p> <p>◎工場現場視察</p>	<p>【成果】 ◎「身体障がい者」のみならず、「知的障がい」「精神障がい」「発達障がい」の者、合計28名を雇用し、健常者15名とあわせ43名の企業。</p> <p>①障がいも個性の一つ</p> <p>②障がい者が互いの得意分野の組み合わせで“二人で二人前”の仕事をする。</p> <p>③配慮はするが特別扱いはいらない。(出来ないことへの支援・配慮)</p> <p>④心のバリアフリー(安心の担保)・・・信頼関係構築が基本[個々人のことは他にはしゃべらない]</p> <p>以上の4点を会社の基本的な考え方とし、『障がい』という大きな不自由はあるが、その人の得意を活かすことにより社会の中で役割分担が可能となる。周囲の方々は本人が出来ること(得意)を[伸ばす環境・体制づくり・支援・配慮]を本人はその得意を活用して、自信が持てる社会人となることが大事。</p>

平成30年度 地区民児協活動支援事業

No.	市町名	地区	実施した事業					事業内容	事業実施に対する自己評価
			地区民協体制強化						
			地域福祉活動の推進	子育て支援活動の推進	資民生委員・児童委員の実施	動民生委員・児童委員活動	地区民児協同士の交流事業の実施		
4	下関市	豊田地区					○	<p><交流会開催日時> 平成30年7月13日(金)13:30~15:00 <参加人数> 豊田民協27名 牟礼民協26名(牟礼社協1名含む) <実施内容>両民協の活動内容の紹介及び意見交換</p>	<p>【成果】 交流会を実施したことにより両民協のコミュニケーション作りができた。</p> <p>【課題】 今回は時間の関係で両民協の問題点等についての意見交換が充分でなかった。</p>
5	宇部市	川上地区			○			<p>日時:平成30年6月17日(日) 10:00~12:00 場所:福岡県春日市原町3丁目1番7号 (公財)福岡県人権啓発情報センター 内容:同和問題教室受講及び施設見学 参加者:川上地区民生委員児童委員 11名</p>	<p>【成果】 同和問題教室を受講し、明治以降の部落問題の歴史や解決にむけた取り組みをより深く知ることにより、委員の同和問題への認識や人権意識を持つことの重要性を再確認することができた。 また、同じ講座を受講することで共通理解のもと人権問題を考える良い機会ともなった。</p> <p>【課題】 委員相互の共通理解を図ることができたが、これをどのように地域の中で広げていくことが出来るかが課題。</p>

No.	市町名	地区	実施した事業					事業内容	事業実施に対する自己評価
			地区民協体制強化						
			地域福祉活動の推進	子育て・児童育成・子育て支援活動の推進	民生委員・児童委員の資質向上に向けた研修の実施	民生委員・児童委員活動に関する調査	地区民児協同士の交流事業の実施		
6	宇部市	小羽山地区		○	○		<p>1 児童育成・子育て支援活動の推進 (1)夢っこ広場 子育て家庭の育児不安の解消及び仲間づくりを目的として実施。 【場所】小羽山ふれあいセンター 大会議室 【対象】乳児から就学前の幼児 【内容】5/15(水) 記念の手形・足形 39人 7/ 3(水) 七夕 40人 9/11(水) 3B体操 (台風により中止) 10/16(水) ハロウィン 37人 12/11 (水)クリスマス 51人 1/29(水) 節分 38人 ※毎回実施:身長・体重測定、育児相談</p> <p>(2)赤ちゃん訪問 【対象】新生児及び気になる子 【実績】3人(4月)・4人(5月)・4人(6月)・1人(7月)・2人(8月)・3人(9月)・2人(10月)・2人(11月)・3人(12月)・3人(1月)・2人(2月)・3人(3月)</p> <p>2 民生委員・児童委員の資質向上に向けた研修の実施 地域の課題や困難事例の解決に向けた検討を行い、委員の資質の向上を図った。 【内容】 6月20日 民生委員活動と福祉委員活動の情報交換 10月3日 福祉委員と見守り活動の情報交換、ふれあい昼食会の検討 3月3日 自治会長、福祉員、親寿会等による地域課題に対するグループワーク</p>	<p>【成果】 ・高齢化や核家族化の進展する地域にあって、新生児の誕生は大変好ましく、活動を通じて、参加者から感謝され、地域住民からは評価を得た。 ・地域関係団体との研修を通じて、地域の課題を共有するとともに、民生委員活動への理解が深化した。</p> <p>【課題】 自治会や子供会等への未加入世帯の増加など、地域連帯感の希薄化が顕著になり、今度の民生委員活動への影響が懸念される。</p>	

No.	市町名	地区	実施した事業					事業内容	事業実施に対する自己評価
			地区民協体制強化						
			地域福祉活動の推進	子育て・児童育成・推進	資質向上に向けた研修の実施	民生委員・児童委員の活動	民生委員・児童委員の調査		
7	宇部市	新川地区			○			<p>・児童施設の視察研修</p> <p>①障害児通所支援事業施設「新川子どもの家」見学 日時 平成30年12月9日 10時～12時 参加者 12名 実施内容 校区内に初めてできた施設の見学</p> <p>・老人福祉施設の視察研修</p> <p>①介護老人保健施設「寿光園」・グループホーム「和み」ほか見学 日時 平成30年3月16日 9時～12時 参加者 8名 実施内容 多様化している老人施設の見学</p> <p>②介護老人保健施設「ベアレント」・グループホーム「らくや」ほか見学 日時 平成30年4月20日 9時～12時 参加者 17名 実施内容 多様化している老人施設の見学</p> <p>③特別養護老人ホーム「むべの里」見学 日時 平成30年6月22日 9時～12時 参加者 16名 実施内容 多様化している老人施設の見学</p> <p>④小規模多機能型居宅介護施設「藤山デイホーム」見学 日時 平成30年10月23日 14時～16時 参加者 12名 実施内容 多様化している老人施設の見学</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児・障害者のための支援施設のことがよく理解できた。 ・介護老人保健施設や特別養護老人ホーム等のことがよく理解できた。 ・小規模多機能型居宅介護施設のことがよく理解できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の中心部にありながら、老人関連施設がないこと。
8	宇部市	鶺鴒の島地区			○			<p>平成30年6月、鶺鴒の島地区民児協委員13名が岡山県の長島愛生園を視察した。過去においてハンセン病患者が療養所への施設入所を余儀なくされ、入所に至る状況、入所後の悲惨な実態等、実地に視察研修を行った。また、平成31年2月、校区の人権大会で約100名の地区住民に報告を行った。</p>	<p>【成果】</p> <p>隔離政策という国策のため、いわれのない差別に対する認識を高め、今後の民生委員活動を行う上での糧となった。</p> <p>【課題】</p> <p>常に人権意識を地域住民全体に広めていく必要を感じた。</p>

No.	市町名	地区	実施した事業						事業内容	事業実施に対する自己評価
			地区民協体制強化							
			地域福祉活動の推進	子育て支援活動の推進	民生委員・児童委員の資質向上に向けた研修の実施	民生委員・児童委員に関する調査活動	地区民児協同士の交流事業の実施	新規事業実施の促進		
9	山口市	湯田地区	○	○	○				<p>1 平成30年度活動計画の具現化</p> <p>①自治会・福祉員との連携については双方の毎月の定例会議等で情報の共有化を図った(12回)</p> <p>②小・中学校との連携については、主任児童委員を窓口で情報を共有化、学校訪問2回、学校運営協議会への出席双方3回、新入学児童下校時の一斉見守りへの参加一週間合計119人</p> <p>③湯田地区自主防災会との連携については、総合避難訓練に参画した台風のため中止</p> <p>④県内外での資質向上に向けた研修会を開催した。 県内:5/15 岩国市消防防災館で防災全般について学んだ(17人参加) 県外:10/15松山法務少年支援センターで子どもや保護者に対する指導方法について学ぶ(17人参加) 2/7中央包括支援センターとの連携について学んだ(25人参加)</p>	<p>定例会議での様々な情報の共有化ができたことは、委員の活動に大いに参考となった。専門機関での研修は、民生児童委員にとって新鮮な知識を得る結果となった。昨今の社会情勢を念頭に、高齢者のみならず子どもにも目を向けた日常活動の大切さを感じた。</p>
10	山口市	宮野地区		○					<p>1 平成30年4月から年10回、毎月第3土曜日に家族の事情等で孤食や学習の遅れが見える子ども(小1~3年)を対象に食事の提供と学習支援を行った。</p> <p>2 平均17人の子ども達が参加し、平成31年度も継続して実施している。</p> <p>3 12月には、子ども食堂の代わりとして、クリスマス会を開催した。</p>	<p>【成果】</p> <p>1 主任児童委員と支援が必要な児童(家庭)とのつながりができつつある。</p> <p>2 食事の準備、提供にあたる地域の社会福祉施設(カレーライスの提供)、民生児童委員、福祉員、食生活改善推進協議会等との連携や学習支援にあたる青少年健全育成連絡協議会等、地域の団体間での協力体制が強まった。</p> <p>【課題】</p> <p>民生委員が行う児童の健全活動をさらに深めていく必要がある。</p>
11	山口市	名田島地区					○		<p>周南市夜市地区民児協との交流会を行う。同民児協とは三回目の研修会で、今回は名田島地区が会場引受けをした。</p> <p>①日時:11月19日(月)10:00~14:30</p> <p>②参加者:夜市地区7人、名田島地区7人</p>	<p>【成果】</p> <p>行政区域を異にすると、様々な取組に差異があり活発な他地区の活動が多様に見られた。夜市地区が作成された研修資料は分かり易くまとめられ参考になった。</p> <p>【課題】</p> <p>事前の準備に工夫すべき点があった。課題、テーマについて聞きたい事を取り纏め、意見発表を行えるようにする。司会者の役割、時間配分の調整など。</p>
12	山口市	秋穂地区	○						<p>大規模災害発生時における民児協や民生委員としての支援活動について認識を深める事を目的に熊本県御船町民児協と研修会を実施</p> <p>①日時:平成30年10月2日13:30~15:00</p> <p>②参加者:御船町民児協 川口会長 他3名、事務局2名、秋穂地区民児協15名</p> <p>③内容:3年前の熊本地震発生から復旧に向けての間、民児協や民生委員としての活動事例を紹介。町役場福祉係の方が事務局を担っていることもあり、行政、社協との協力関係も話された。</p>	<p>【成果】</p> <p>当地区においては、大きな災害を経験したことが少なく、発生時の対応についての取組みも十分でなく、実際の体験事例を聞くことでより身近なこととしての取組みの必要性を感じられたことが良かったと考える。</p> <p>【課題】</p> <p>訪問先が遠距離だったこともあり、参加者が15名と若干少なかったこと。また、今後の防災活動や災害発生時の支援活動について具体的な取組が必要と考える。</p>

No.	市町名	地区	実施した事業					事業内容	事業実施に対する自己評価
			地区民協体制強化						
			地域福祉活動の推進	子育て支援活動の推進 児童育成	資質向上に向けた研修 民生委員・児童委員	民生委員・児童委員活動 の推進	地区民児協同士の 交流事業の実施		
13	萩市	須佐地区			○			<p>終活研修を2回シリーズで実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 各自が「元気なうちから始める！こじらせない死に支度」を読み、終活について事前学習を実施 ・第1回目 ①日時：平成30年10月17日 ②参加人数：17名 ③内容：「遺言と遺産相続について」講義と意見交換 講師：ながたに法律事務所 長谷義明弁護士 ・第2回 ①日時：平成31年1月16日 ②参加人数：17名 ③内容：「成年後見制度とエンディングノートについて」 講師：ながたに法律事務所 長谷義明弁護士 	<p>【成果】 長谷講師から事前学習として紹介された「元気なうちから始める！こじらせない死に仕度」の本を各自が読んで2回の講義を受講したため、日頃の活動の中での対応方法等について多くの示唆があった。講師が具体的な事例で講義をされたため、すぐに使える知識が多く大変有意義な研修となった。</p> <p>【課題】 独居高齢者で認知症のある方や相続権のある親族が不在の事例等、日頃の困難事例について会員全員で協議ができた。</p>
14	萩市	川上地区				○	<p>日時：平成30年10月11日 参加人数：川上地区民児協 9名 旭地区民児協9名 内容：山口ゆめ花博視察 懇親会にて情報交換会を実施</p>	<p>【成果】 情報交換にて活動内容等今後の参考にすることができた。視察・懇親会で親睦を深める事ができた。</p> <p>【課題】 高齢者の独居が多くなり、見守り活動の負担が増えていく。各地域とも後継者不足であり、現状維持が困難な状況である。</p>	
15	萩市	大島地区			○	○	○	<p>日時：平成31年3月17日 参加人数：11名 内容：・同じ離島同士交流を図り、離島の悩みを話し合いこれからの地区民児協の活動に活かす。 ・サロンかもめに対する協力</p>	<p>【成果】 お互い島の良いところ、悪いところ、悩み等の屈託のない意見を聞いて有意義な交流会となった。</p> <p>【課題】 これからも定期的に交流を持ち、民生委員活動をより良い資質向上につなげていきたい。</p>
16	防府市	牟礼地区	○	○	○	○	<p>【活動強化事業として】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①市民児協主催の児童福祉部会(6/20)、障害者部会(7/18)、高齢者部会(9/25)の各研修会への積極的参加の指示を発令し、定例会での報告会を徹底した。(85%) ②牟礼地区「福祉関係者 合同研修会」開催(6/23) 参加対象者は、民生委員児童委員、友愛訪問委員、福祉員、社協役員に加えて、各自自治会福祉部にも呼びかけ開催した。開催内容は、原田訪問介護センター代表の原田さんから、認知症の方への接し方等の講話を聞き、市社協の上田係長には、「我がこと・丸ごとって何?」と題して福祉の輪づくり運動の必要性のノウハウを拝聴。 ※来季も、自治会福祉部の関係者を招聘し、ボトムアップを図りたい。 ③3年前の会長研修会時から、下関市豊田町民児協の津田恒雄会長と交流が始まり、7/13に両民児協(豊田29名、牟礼25名 防府市公会堂)の交流会を開催した。お互いの民児協同士の実践活動の報告をし、意見交換を実施。(社協も同席)有意義な交流会。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①出席率の向上と、研修内容をまとめ発表することで、復習の効果あり。 ②牟礼地区内の福祉関係者のレベルアップと福祉問題の共有ができたと思う。 ③交流会等の開催により、新情報及び新知識の入手ができた。 <p>【課題】 いつ発生するか分からない災害に対し、高齢者のために「災害時安否確認票」を有効に活用できる体制づくりと方法を自治会と共に進めていくことが必要。</p>	

No.	市町名	地区	実施した事業						事業内容	事業実施に対する自己評価
			地区民協体制強化							
			地域福祉活動の推進	子育て・児童育成・推進	資質向上に向けた研修	民生委員・児童委員の活動	民生委員・児童委員の調査	地区民児協同士の交流事業の実施		
17	防府市	佐波地区	○	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・佐波地下道西側入口(50m)清掃、花壇耕作、春夏秋冬花苗を植える。 ・佐波小学校新入生に、鉛筆、消しゴム、ハンカチを配って本年16年目 ・全国民生委員の日 5月にひとり暮らし高齢者訪問手土産 ・偶数月(15日)ATM付近にて詐欺防止チラシ配り ・施設等研修視察 等 	<p>【成果】</p> <p>警察と一緒に実施する見守り訪問活動などから地域からも喜んでもらえて、やりがいを感じる。</p> <p>新入学児童支援は、16年を迎えるが継続していきたい。子どもたちは、小学3年生になってもプレゼントしてもらったことを覚えている。</p> <p>通行の多い道路傍の荒れ果てていた花壇を綺麗にして、子ども達が安心して通れるよう整備するなど活動を続けているが、次々と仕事が増加し現在の活動量を後継者に引き継ぐことは困難に感じる。</p>
18	防府市	富海地区	○	○					<p>①多くの人の手を借りることで、見守りの力が二倍にも三倍にもなります。困窮は、経済の面だけではありません。高齢者については、まずいくつかの病を抱えておられ、不自由な生活を強いられています。お一人暮らしともなれば、なおさらのことです。向こう三軒両隣の精神で今一度、お互いがかまひあうことから始めます。</p> <p>・1年間</p> <p>・訪問活動(委員担当地区の気になる方への訪問時)の際に近隣者にネットワークに入ってもらい、訪問時には必ず頼みごとをして帰る。</p> <p>・対象者(ひとり暮らしの高齢者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/15には「たちばな会」(ひとり暮らし高齢者の会)の集い。 内容は、家で閉じこもりを無くす。 地域との交流、生きがいを見つける。 ※社協と共催 40名参加 講師を呼び、健康管理のためのリンパ体操を行う。 <p>・年末には安否確認を兼ね砂糖持参で訪問</p> <p>②子育てマップ作りにより子育て世帯の孤立と不安を取り除く。今活動中の「よちよちクラブ」(未就学児)への勧誘。子育ての支援。主任児童委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者(子育て世帯) ・1年(毎月1回(第1火曜日)実施) 	<p>【成果】</p> <p>①この事業は民児協活動の基本をなすもので、継続することに意味があることだと認識しており、輪が広がると信じています。会合では久しぶりに友人と会話ができ、また、健康法も学ぶ事ができ、大変良かったとの声。</p> <p>②マップ作りにより、参加対象者との交流機会が早い段階で訪れ、参加者の増員に貢献。</p> <p>【課題】</p> <p>①少人数、気の合う者同士の集い等の要望もあり小規模グループ「サロン」の必要性を強く感じ、担い手役として地区担当者の力を期待したい。</p> <p>②「よちよちクラブ」に期待されることは、マンネリ化することなく、単なる子守りにならないよう工夫し、次回開催を楽しみにされるようになることです。</p>
19	下松市	花岡地区	○	○	○	○	○		<p>①高齢者・児童との交流、見守り活動の充実を図る。</p> <p>②民生委員・児童委員の資質向上に努める。</p> <p>③関係機関、団体との連携、支援活動の継続に努める。</p> <p>基本認識として、委員としての原点を再認識して活動し、日々の活動を自分のものにし、「地域の良き隣人」になろうを確認</p>	<p>【成果】</p> <p>地区民児協として、一体化を感じられる(厚生労働大臣表彰を受けより一層)</p> <p>【課題】</p> <p>テーマによるマンネリ化が気になる。「こんなことがありました」の発表事例。</p>
20	岩国市	北河内地区			○				<p>「地元から「信頼される委員活動を推進する」ことを目的に、民生委員としての基礎知識の習得、諸課題に対応できる知識、ノウハウ等の習得、地域内各団体との連携による地域ニーズの把握などに努めるため、下記の研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年5月9日地区福祉員連絡協議会との高齢者についての合同研修会 ・同年11月 地区社会福祉協議会との地区活性化に向けた取組みの研修会 ・毎月の地区定例会において、基本的役割の再認識等についてのディスカッション 	<p>民生委員・児童委員の活動は、地域内の関係者と幅広い観点からの連携が必要不可欠との認識を一段と強く持つとともに、日常からの情報交換、地域ニーズの把握につながる活動を展開していくことの必要性を改めて強く感じた。</p> <p>上記の活動を推進していく上で、民生委員児童委員としての知識、ノウハウの習得に継続して努めていくことを再認識した。</p>

No.	市町名	地区	実施した事業					事業内容	事業実施に対する自己評価
			地区民協体制強化						
			地域福祉活動の推進	子育て支援活動の推進	資民生委員・児童委員の実施	民生委員・児童委員活動	地区民児協同士の交流事業の実施		
21	岩国市	藤河地区	○					<p>【実施日】 平成31年3月13日(水)</p> <p>【実施内容】 ①高齢者の見守りについて ②災害発生時における委員の関わり方について ③その他 周防大島町東和地区民児協、福祉員との合同研修</p>	<p>【成果】 地区民児協としての他団体との協力が必要だと改めて考えることができた。また、防災マップなど要支援者に対する資料が上手く作成されているので、見直しをしたらと考えられた。</p> <p>【課題】 ・民生委員・児童委員及び福祉員等、次の担い手がいないことは、どこも同じ ・資料の見直しが必要だと思った。 ・行政との連絡をしっかりとする必要があると思う。</p>
22	岩国市	小瀬地区			○			<p>6月26日(火)午前9時半から11時半まで、介護付有料老人ホーム コリーナ小方(大竹市小方ヶ丘)を委員7名で訪問。 4月に開所した施設であった。定員60名(個室52室、二人部屋4室)機能回復訓練スペース、機能回復訓練室、特別浴室、ゲストルームなどが備わっていた。施設や介護サービスの利用手続きを担当者の方に説明してもらった。家賃、共益費、食事やその他費用を入れると月20万程度はかかる。その後、参加者で昼食交流をして午後2時に小瀬に帰る。</p>	<p>【成果】 新設の介護付有料老人ホームを見学した。現在の老人ホームで、ケアマネや職員を確保することが大切であることが分かった。</p> <p>【課題】 職員の確保ができないと、定員までの入居者が確保できず介護施設の運営が困難になることが分かった。 また、施設に入居するには、月20万程度かかる。年金だけでは施設に入るのが困難である。</p>
23	岩国市	御庄地区	○		○			<p>1 見守りマップの充実とこれからの福祉員との連携活用。 福祉員と協働し、65歳以上高齢者一人暮らしと75歳以上二人暮らしの場所を再確認し、以前より作成している見守りマップを修正し、協働で見守りを実施した。 この御庄地区全域マップを作成し、災害発生時に活用できるようにしている。 2 災害に遭った地域を訪問し、その時の対応をお聞きし、今後災害発生時の参考となる事項を吸収した。 3 地元の各種施設を訪問し、その施設や役目を理解し、災害時に助け合えるようにした。</p>	<p>見守りマップは完成した。これを自治会、社協、自主防災会、消防団と協議し、災害時の活用を可能にするよう改善していく。</p>
24	岩国市	南河内地区			○			<p>【実施日】 平成31年3月27日(水)</p> <p>【実施内容】 民生児童委員9名 福祉員 8名 参加 福祉用具プラザ北九州で各福祉用具の説明を受けながら展示場を案内してもらった。見て、触って、試せるので勉強になった。</p>	<p>【成果】 民生委員、福祉員と一緒に研修を受け、往復の車内等で親睦を回り地域の情報共有ができたと思う。 今後も継続して実施ができればと思う。</p>

No.	市町名	地区	実施した事業						事業内容	事業実施に対する自己評価
			地区民協体制強化							
			地域福祉活動の推進	子育て支援活動の推進 児童育成・	資質向上に向けた研修 民生委員・児童委員の	動の推進に 民生委員・児童委員活動	地区民児協同士の 交流事業の実施	新規事業実施の促進		
25	光市	第3地区			○			1 視察研修 平成30年11月13-14日 参加者 22名 松江市法吉公民館 内容 ・災害時における地域での助け合い事業 地域公民館単位での計画・組織運営・支援体制等 ・災害時における民生委員の役割 要援護者・支援者の登録呼びかけ等 2 認知症研修 平成30年8月8日 参加者 30名 光市内発生状況：種類及び特徴 発症者への対応、接し方、相談先等	【成果】 光市では、7月に豪雨災害が発生し、今まで比較的自然的災害が少なかったため、災害発生時の準備が遅れていた。このことを反省した上で防災への取組が先進地である地域での研修は、これからの民児協活動の指針となった。 特に、おねがい会員(要支援者)、まかせて会員(支援者)の制度は参考としたい。 委員全員が認知症に関する関心が高まり、知識の習得ができた。 【課題】 ・災害が発生した時の対応、民生委員としての役割の再構築が必要 ・認知症発症者への個々の対応	
26	光市	第4地区	○	○	○			1 第四地区民児協の組織強化の内部研修会の実施。内部講師(光市福祉事務所担当課長、光市社会福祉事務所事務局長及び担当者) 2 地区内福祉施設の訪問及び地区社協の敬老会イベントへ連携協働する。 3 光市社協の豪雨災害ボランティアに対し、光市民児協として20万円を支援した。(民生委員一人当たり1,500円拠出×122名) 4 子育てサロンの開設。 毎月第4水曜日9:00～12:00の間、三島コミセン大ホールにて実施 親子の参加者数・毎月平均42名	【成果】 地区民児協の活性化と地域に根ざした福祉活動は、行政、社協、民児協が先ずもって心を一つにして、平素、連携・協働を展開することが大切。地域のコミュニティーセンターを中心とした組織との連携が必要です。(シニアクラブ、地区自治会(地区連合自治会)、福祉員 特に小・中学校との連携。(CS活動への参加、運営委員会委員等)	
27	長門市	通地区		○	○			1 小学校の登下校時の見守り活動及び通学路点検 2 施設訪問研修 10/3山口市：夢のみずうみ村 3 町づくり協議会、地区社協との連携協力 ～5/4.7/15.8/25.9/22.11/27.12/9.2/16	【成果】 1 小学生の登校時見守り安全確認ができた。 2 入所の各自が努力している姿が印象に残った。 3 地域のグループと協力することで地域の活性化に役立てた。 【課題】 1 地区民児協同士の交流を図る 2 新規事業の促進	
28	柳井市	新庄地区			○			【目的】 近隣での人権研修に参加することはあったが、長年地区民児協の中でハンセン病について、その歴史や真の声を聞いて人権について考えてみたいとの声があり実施に至った。この研修により人権に関する深い識見を得ると共に、民生委員・児童委員としてのあり方を思考して、人との接し方等活动に役立てる。 【内容等】 平成30年8月4日参加者6名で、ハンセン病国立療養所「長島愛生園」を訪問し、歴史観や関連施設を見学した。入所者の現状を聞き、ビデオの視聴や書き物を目にする事で真の声を聞くことができ、偏見による人権侵害について再考の機会となった。	【成果】 偏見による人権侵害の最たる事例と言えるハンセン病の歴史について学ぶことができ、各人がこの事例に限らず身の回りでも発生する可能性があることを認識することができた。 【課題】 地区民児協において研修内容を全委員に伝達したが、研修日直前に不幸事があり全員での参加が叶わなかったことが残念であった。	

No.	市町名	地区	実施した事業						事業内容	事業実施に対する自己評価
			地区民協体制強化							
			地域福祉活動の推進	子育て・児童育成・児童支援活動の推進	資質向上に向けた研修の実施	民生委員・児童委員の活動に関する調査	地区民児協同士の交流事業の実施	新規事業実施の促進		
29	柳井市	大畠地区			○			<p>【目的】 障害児や障害者の方の現状を把握するため、県内初の併設施設で入所者や保護者、職員の状況を知る。</p> <p>【内容等】 平成30年7月4日 参加者 14名 ・福祉型障害児入所施設「はなのうら」 ・障害者支援施設「華の浦」 児・者併設施設を視察</p>	<p>【成果・課題】 「その人らしさを大切に」の理念で事業が行われているのは保護者には有難いと思う。こども通所支援事業も良い居場所作りになるし、防災、防犯対策も兼ね備えた配慮ある施設・設備は地域にも頼れる場所だと思う。 自分たちの地域にない施設を視察することは今後支援する上で役立つと思う。障害の状態は個々異なり軽度から重度と様々なので、特に職員数の減る夜間は大変だろうと感じた。近くにこのような施設があることが望ましいと思う。</p>	
30	美祢市	於福地区	○				<p>・福祉活動推進連絡会 6月14日(31名参加) 於福地区社会福祉協議会総会・研修会終了後、各民生委員担当地区ごとに福祉員との意見交換を行い共有化を図った。 12月13日(33名参加) 地区社協主催の連絡会に参加し、6月以降の状況の変化等について情報交換を行った。 ・於福の子どもを見守る会 7月5日(25名参加) 小・中学校関係者、駐在所、町内団体等委員が出席し、学校及び於福町内の情報の共有を図った。 12月3日(参加者25名) 7月開催移行の状況の変化等について意見交換を行った。</p>	<p>於福地区は全てが中山間地で、地域も広いため見守り等が十分に機能しているとは言えない状況である。特に地区福祉員は毎年交代される地区が多く連携の継続が困難である。 子どもの見守りについては、小学校において交通事故無事故の日が9300日を超え、それなりに効果があると思われる。</p>		
31	美祢市	美東地区			○		○	<p>・日時 平成30年7月12日(金) ・場所 阿武町町民センター多目的ホール ・回数 1回 ・参加者数 美祢市美東町民児協 18名 社協1名 市職員1名 阿武町民児協:全員 町職員2名 ・実施内容 まちづくりの活動、取組みに熱心な阿武町を訪れ、阿武町の民生委員と交流を持ちながら、各民児協の活動状況及び課題等紹介し合い、解決等に向けた意見交換を実施した。 また、DVD「民生委員 相談・支援活動のポイント」視聴し、各民児協での相談・支援活動状況を話し合った。 午後からは、阿武町暮らし相談センターを視察した。</p>	<p>【成果】 平成25年の災害時の話を聞き、今後の災害時の民生委員としての対応及び「避難行動要支援者名簿」の重要性について具体的な説明を受け、非常に参考となった。 【課題】 今後人口減少や少子高齢化等で地域の弱体化が進む一方、大規模災害など自然災害にどのように対処し、犯罪や事故を防ぐかは住民の関心事であり、その中で民生委員がどのように関わられるか検討しておく必要がある。</p>	

No.	市町名	地区	実施した事業						事業内容	事業実施に対する自己評価
			地区民協体制強化							
			地域福祉活動の推進	子育て・児童育成・推進	資民生委員・児童委員の向上に向けた研修の実施	民生委員・児童委員活動に関する調査	地区民児協同士の交流事業の実施	新規事業実施の促進		
32	周南市	中央地区			○			<p>・日時 平成31年2月19日(火) 9:00～15:30</p> <p>・参加者数 11名</p> <p>・実施内容</p> <p>①特別養護老人ホーム「灘海園」訪問研修 ～その人らしさを大切に～理念のもと、自宅に近い住環境で生活する工夫が随所に見られ、施設を感じさせない温かさを感じる良い研修でした。</p> <p>②漬物工場「うまもん」見学と糠床体験学習 漬物工場は、市内の小学校の社会見学の場であり、売上の一部が地域福祉活動に寄付されるということで、糠床づくり体験し、昔ながらの食文化を学習しました。</p>	<p>【成果】 市外の施設見学は費用面で難しく、今回本事業の利用で実施できました。いろいろな施設を実際に見学することで、自地域での相談等活動に活かせる。</p> <p>【課題】 施設訪問が2月となり、インフルエンザ予防のため居室部分の見学ができなくなり残念でした。その分、映像による施設説明を用意して下さり感謝でした。やはり、施設と事前打合せをしても、実施時期を考慮すべきでした。</p>	
33	周南市	楯浜鼓南地区	○		○		<p>高齢者福祉、高齢者の見守りの地域ネットワーク作り</p> <p>①民生委員、福祉員、自治会福祉部長と見守りの合同研修を実施した。6月29日 楯浜市民センター 講師：国兼由美子、田中謙治</p> <p>②見守りについて、民生委員、地区社協、福祉員、自治会福祉部長、地域福祉コーディネーターと話し合い、見守り活動の情報共有を行った。</p> <p>③民生委員と福祉員が協働し、65歳以上の一人暮らし高齢者にクリスマスプレゼントを届けた。民児協負担20,000円(鼓南地区)</p> <p>④地区社協、福祉員、婦人会、中学生と協働して、75歳以上独居高齢者にお節料理を届けた。(楯浜地区)12月21日177名、事業費(民児協分)30,000円</p> <p>⑤安心カードの更新(75歳以上、一人暮らし) 携帯用安心カードのカードケース300枚:10,800円 壁掛型安心カード カードケース300枚:5,587円、印刷費:960円</p> <p>⑥本人の了承を得て、民生委員と福祉員、地域福祉コーディネーターとで安心カード設置場所を共有する活動を行った。</p> <p>⑦福祉員と民生委員の合同研修会、交流会を開催した。 日時:3月8日、場所:国民宿舎「大城」、講師:池田信子</p>	<p>【成果】 民生委員、福祉員、自治会福祉部長、地域福祉コーディネーターとで見守り等について気軽に話し合える関係が醸成しつつあり、地域福祉の向上に役立った。 地区社協と協力し、組織的にネットワーク作りを行う事業計画にすることができた。</p> <p>【課題】 地域ネットワーク作りは始まったばかりで民生委員、福祉員、自治会福祉部長が交替するたび(特に自治会福祉部長は短期(1年)で交替する人が多い)に新たに関係づくりを行わなければ、ネットワークはすぐに崩れる。また情報共有は個人情報漏えいにつながりやすく、守秘義務違反にならないよう注意を要する。</p>		
34	周南市	湯野地区			○		<p>1 民生委員と福祉員の合同研修会(2回実施)</p> <p>①日時:平成31年1月23日13:30～14:30 参加者数:26名 実施内容:独居老人訪問時に異常を感じた時の緊急対応の方法について竹内医院、医院長に質疑応答形式で話を聞いた。</p> <p>②日時:平成31年2月20日13:30～14:30 参加者数:25名 実施内容:高齢者を支える人にとってほしい法律～遺言と相続手続き～について弁護士(石原詠美子氏)から講演いただいた。</p> <p>2 民生委員研修</p> <p>①日時:平成31年2月13日 18:30～19:30 参加者数:7名 実施内容:活動記録の記入方法について専門家から指導を受けた。</p>	<p>【成果】 ・訪問先の高齢者の異変にどう対処したら良いのか、認知症の方への接し方等が分かった。 ・相続手続きや遺言状について相談された時の参考になる話だった。 ・今まで間違っって記入していたことが分かった。今後にかなり役立てそうだった。</p> <p>【課題】 ・高齢者の異変に遭遇した時に咄嗟に対処できるか課題。 ・活動記録は事例によってどの項目に記入すべきか、迷うことがあり、なかなか正確に記入するのは難しい。</p>		

No.	市町名	地区	実施した事業						事業内容	事業実施に対する自己評価
			地区民協体制強化							
			地域福祉活動の推進	子育て支援活動の推進 児童育成	資質向上に向けた研修の実施 民生委員・児童委員	民生委員・児童委員活動に関する調査	地区民児協同士の交流事業の実施	新規事業実施の促進		
35	周南市	富田地区	○						富田地区にあるサロン(老人会も含む)に対して、各担当民生委員により、「スポレクふれあいの集い」の参加を世話人である福祉員等に働きかけ、その協力を得て、活動を展開した。 ①実施箇所: サロン 13箇所、老人会 2カ所、計15カ所 ②延べ参加人数: 270名 ③実施内容 介護予防・認知症予防を主体とした、筋トレ、手・指の体操による、脳の活性化を加えた、レクリエーション(遊び)を実施した。	【成果】 ①参加者に「楽しかった、また来てほしい」「日常生活の中で実施できる」との評価をもらった。 ②世話人からも「大変参考になった」と感謝の言葉をいただいた。 【課題】 ①この活動は継続してこそ、成果が出ると考えられ、民児協活動の中に取り込んでいく必要がある。 ⇒平成31年度活動計画に盛り込み、通年で開催する。
36	周南市	和田地区	○	○				①高齢者の福祉推進活動 各地区いきいきサロン等での百歳体操への協力と助成 各地区に自動血圧計設置による健康維持 ②地域で子どもを育む活動への参加と助成 コミスクとの連携で活動を推進 ③放課後子ども教室の充実 将棋、オセロ等ゲームを通して楽しさを学ぶ	【成果】 当民児協は単独事業は限られるが、各団体との連携で活動している中、高齢者、子どもと幅広く対応ができたと考ええる。 【課題】 高齢者の増加、少子化による事業自体の変化への対応。	
37	山陽小野田市	第1地区	○	○	○			10/2市町研修(山口県庁内、消費生活センター)参加者18名 研修後、詐欺対策として、一人暮らし高齢者にハガキを個々に通知 ・毎月25日 登校時に地区内2小学校校門であいさつ運動 ・毎週水曜日には下校時の見守り活動を実施	地域と高齢者と子供と学校と綿密な連携等、民生・児童委員としての自覚と意識の変化があった。 強化支援事業の指定が終了しても継続していく。	
38	上関町	上関町			○			災害対策の先進地域の自主防災組織を視察 日時: 11月15日 14:00~16:00 視察先: 大分県佐伯市米水津 宮野浦むらの覚悟委員会 出席者: 民生児童委員 10名、事務局 1名、社協 1名 合計12名(当日諸事情により1名欠席) 11月15日 18:30より出席民生委員児童委員の意見交換会実施。	【成果】 災害に対する意識改革。災害に対する取り組みについて、検討することができた。定例会等においても話し合いの場を持つ機会が増えた。また、民生委員としてだけでなく、個人レベルでの災害対策の取組みも増えた。 【課題】 参加者が少なかった。地域によって取組も変わってくるので、上関独自の災害対策について、今後さらに様々な研修や勉強会が必要になってくる。 例・災害だけでなく 緊急時の対応策	
39	田布施町	田布施町				○		5月1日より、町内在住の高齢者に関する調査(高齢者保健福祉実態調査)を実施した。 ・対象者 65歳以上の一人暮らし高齢者 75歳以上の二人世帯 65歳以上の寝たきり高齢者 ・調査方法 民生委員が実際にお宅を訪問し、対象者の現状やニーズについて聞き取りを行い、調査票に記入する。 ・調査項目 健康状態、緊急連絡先、利用中のサービス、今後利用したいサービス等	【成果】 実際に訪問することで、生活環境も踏まえた高齢者実態把握ができ、ニーズ調査も行うことができた。 高齢者の方に担当の民生委員を知ってもらう機会にもなり、今後の相談もしやすい関係になった。 【課題】 調査を行う上で、まだ必要が無いと調査を拒否される方も多くあった。特に65歳という年齢は、現役で働かれている方も多いため、今後年齢要件を見直す必要性もある。	